本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

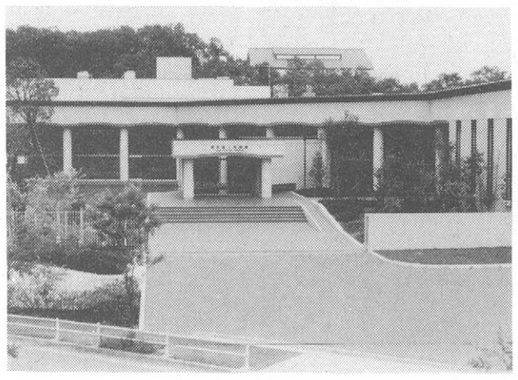
発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3-7-28　宝幸西新宿ビル
電話 03（343）1846代表
振替口座　東京172320
〒543 支社　大阪市天王寺区勝山2-14-6-8
電話 06（771）7415代表

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,800円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

出かけよう那須荘へ
今度はどんな人たちと友だちになれるかナ。
全国婦人新聞社

東京富士美術館



芸術を奨励するルイ14世｜アンリ・シモン・トマサン（1728）

身近かで楽しめる　学びの場

八王子駅からバスで北へ十五、六分。市街地を離れ、武蔵野の面影を濃く残す丘陵の中、創価大学の敷地の一画に建つ。

この十一月二日開館したばかり。富士美術館（静岡県）の十周年記念事業の一つとして造られた。

敷地面積一万三千六百平方㍍、延べ床面積約五千二百平方㍍。展示室五室、企画展示室、講堂、実習室、研究室、図書室、収蔵庫、喫茶室などを完備、広々とした風情を見せている。

開館記念事業として、一月十六日まで近世フランス絵画展を開催中である。これは、フランスを代表するルーブル、ヴェルサイユ、ボルドー、ディジョンなど八つの美術館の協力で、八館の持つ、十六世紀から十九世紀の画家たちの代表的な作品を集めたもの。絵画二十四点、銅版画三十六点、銅原版五点で、フランス派の成立から、十九世紀写実主義まで、絵画史的に見られるようになっている。

絵画の中ではピエール・ミニャール「甲冑のルイ十四世」、アントワーヌ・ジャン・グロ「アルコル橋のボナパルト」＝共にヴェルサイユ美術館所蔵＝が、フランス国内でも、館外に持ち出されたことのない貴重な作品。

今回の作品の中で注目されるのは銅版画と銅原版。全部ルーブル美術館から出品されたもの。フランスの銅版画は、ルイ十四世の時代のころから、王室の保護のもとに盛んになった。

環境も建物も豪華
近世フランス絵画展で幕開け

フランス革命以来、王室のコレクションは国に移管され、現在、ルーブル美術館が保管している銅版（原版）は一万六千点という。技法はビュラン（金属彫刻用ノミ）彫り、それにエッチング（腐蝕法）を組み合わせたもの。話題は原版が五点出品されていること。ルーブルの銅版画の原版は門外不出。国外に出るのは今回がはじめてという。よく手入れされた銅の美しい板の上に、よくも……と舌を巻く細かい一つ一つの彫り。惹入られるような美しさである。また、「パリのふかん図」は十九世紀のパリの地図で、縦三㍍、横四㍍。現存する世界最大の版画という巨大なもの。一体、何人で、こんな大きなものを彫ったか、見当もつかないが、ため息の出るような大作である。

地元の願望に応え

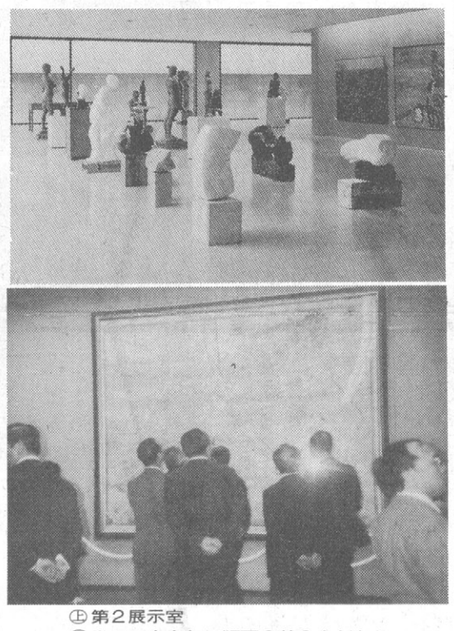
富士美術館は、自館の所蔵品はこれからというところだが、静岡県富士宮市の富士美術館と姉妹館ということで、同館の三千点がそのまま利用できる。富士美術館は、総合美術館ということで幅広いコレクションがあるが、中国陶磁器など定評があり、こうした所蔵品の特別展や常設展示も楽しめそう。

東京・多摩地区は美術館、博物館の少ないところで、この美術館は、地元の要望、地域の文化の向上も願ったものという。八王子というと遠い感じがし、東京から来ても、中央線の快速特急で意外に早く着いてしまう。だが、それからが、駅から離れているし、ちょっと来づらいかな、という感じだが、同館では八王子市内は近くの大学ふえ、創価大学はじめ十六の大学があり、学生中心に、かなりの利用者があるのではないかとふんでいる。また、美術館を広く市民に開放するための企画も考えられている。

まわりの景色もよく、建物も創価学会系の他の建物と同じく、豪華でゆったりしている。建物と環境を楽しむために訪ずれてみるのも悪意くない。

◇　◇

「東京富士美術館」＝〒192
東京都八王子市谷野町四九二一
☎0426 91 4511
▽交通　国鉄、京王八王子駅からバスで16分　創価大学行　谷野町下車、純心学園行、戸吹行　創価大学正門前下車
▽休館日　12月26日～12月31日
▽開館時間　10時～5時（入館受付は4・30まで）
▽入館料　大人　八百円、大学・高校生六百円、小・中学生三百円、団体割引（二〇名以上）百円。



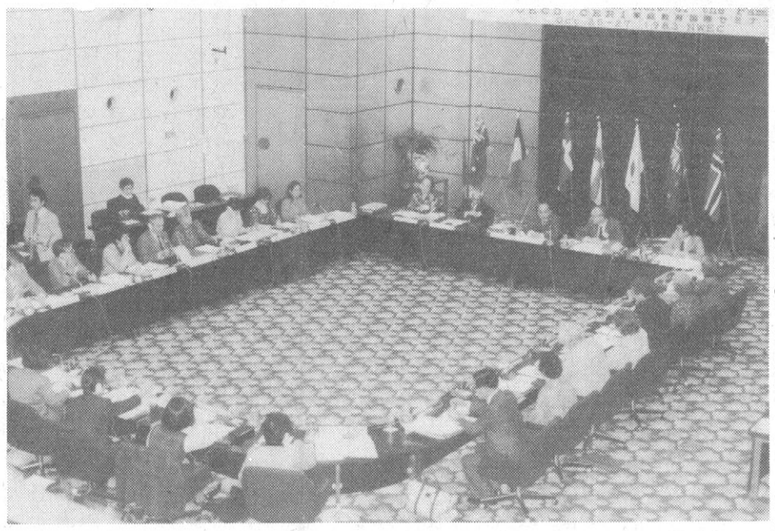
㊤第2展示室
㊦世界一大きな銅版画の前の人だかり

親が教育的役割を果たすには
国立婦人教育会館
OECD CERI　家庭教育国際セミナー

十月二十五日～二十七日までの三日間、埼玉県嵐山町にある国立婦人教育会館（志熊敦子館長）で、「OECD・CERI（経済協力開発機構・教育研究革新センター）家庭教育国際セミナー」が開かれた。テーマは「親の教育的役割を促進し、理解を深めるために必要な知識、方法について考慮する」。同セミナーは、経済社会の急激な発展の反面、核家族化、離婚の増加や高齢化の進行などを背景に、親子関係や、青少年非行、学校・地域といった、家庭教育上に、さまざまな歪みがでていることから、各国の家庭教育をめぐる現状と課題について情報交換、これに対応するための両親教育の方法や効果について研究討議しようというもの。

今回のセミナーでは、専門家を含む十三ヵ国、二十人の参加者をむかえ、経済変動と家庭の変化、家庭機能のあり方、家庭教育の課題と展望についてディスカッションが行われた。日本では、戦後の混乱期のあと、高度成長期をむかえ、GNPも上昇、経済大国へと発展した。しかし、その一方で、家族形態の変化、核家族化がすすみ、戦前のそれとは、大きく姿をかえていた。近年では、青少年の非行の低年齢化、校内暴力など、かって例を見ない現象が起き、社会的な問題として取り上げられ、ひいては、家庭や家族のあり方に疑問が投げかけられている。それでは、他のOECD加盟国の場合はどうなのか――。これから、どのように対応していくのが望ましいことなのか。三日間にわたる同セミナーの模様を報告する。（記事1、2面に）

父親不在母に重荷
外国の歴史的体験報告も



日本の研究報告

日本の研究報告として、日本の家庭の教育的役割について発表した、東京女子大学文理学部教授の柏木恵子さんは、①大人の犯罪が少くなり、子どもの犯罪が増えている②登校拒否③いつまでも大人になりたがらない成熟拒否青年がいる④テストの点は高くても、独創性や新しい問題を解決できない、という子どもの知的な発達の問題の四点を問題点としてあげ、この背景には、親子の安定した関係がつくりにくくなっているからではないか、と言う。

「日本の場合、子どもの知的開発を求めるあまり、さらに母親との関係が密着し、過保護、過干渉が長期化しています」

昔と違い、子どもの数が減り、家事も楽くなって、エネルギーが余り、母親たちは、しなくてもいいことまでしてしまうことになるのだ。

夫は、外で働きバチになって、家庭のことをいっさい、妻に押しつけた結果、家庭責任が過重に母親にかかってしまう。

「任された妻は、教育責任を果たすために、教育ママになり子どもに対して過干渉になっていきますが、その一方に、自分だけでやることに不安も持っているのです。」

そこには、やはり、父親の役割が何らかの形としてあるべきだと言う。家庭の父親不在の現在の状況に、労働界での検討がもっと必要だ、とも。

不安にかられている母親たちの、心理的な解消も必要だ。

母親同士が、連帯して、共同学習や社会参加をして、育児を自分の生活の中で位置づけることも大切だ。

「母親が就労するのは、よくないと言われているが、就労することは、社会参加へのはっきりした意味が含まれています。今までかまい過ぎたった母親がいいお母さんになった例もあります」。

また、子どもをめぐる環境にも問題があるっプラジオやテレビ、レコードなど、家庭内の言語的刺激は、昔とは比べものにならないほど豊かになっている。しかし、日本の母親たちは、物を与えることはしても、言語的なやりとりに乏しい。

「母子のコミュニケーションのあり方が問題。相互的というより、一方的に物を教えるという格好になっている。また、子どもたちの経験の少なさも問題だ」

柏木恵子さん

日本人の子どもたちは、諸外国に比べ、自分の部屋を持っている比率が高く、勉強もよくしている。しかし、遊んだり、家事育児をしたりする経験に乏しい。子どもというのは、物との関わりを通して、いろいろな経験をしたり、人との関わりを持ったりするものだ。

柏木さんは、母子の接触のあり方、子どもたちに多様な経験をさせることを掲げ「子ども自身も生きる価値を持っていることを認めるべき。日本では、子どもが持ち物化、これも過干渉の原因になっている。これからの子どもは、知的能力よりも、自分で新しい知識を学ぶ力、新しいことへの関心を持って、可能性を持ち続けることのできる人間にしていくことが、これからの教育の課題ではないか」とした。

パネル・ディスカッション

続いて、パネル・ディスカッションでは、「アメリカの家族の歴史的変化：家庭の教育的役割との関係」をテーマにアメリカ・クラーク大学教授のタマラ・K・ハーレヴンさんが、「家庭の教育的役割と最近の婦人問題について、西ドイツのハノーバー婦人問題研究所長のリタ・スススムスさんが、「現在行われている両親教育」について、イギリス・全英児童局上級開発担当官のジリアン・ピューさんが、それぞれ発表を行った。

ハーレヴンさんは、家族が歴史的に変化してきた過程で生れてきたものは、ヨーロッパも日本も同様。核家族化によって、今まで、家族内で相互援助により学んだりできたことが不可能になっている。そこで、これからは、学校をライバルとして考えるのではなく、母親と協力体制を敷くようにしていくべきだし、家族も適切に協力を求めるべきだ、とした。

リタ・スススムスさん（西独）

西ドイツのリタ・スススムさんは、今、生活様式に質の見直しが必要だという。家庭が構造的に変化しているのに、教育に関する変化が少いのが現状。家庭活動にしても、夫の参加が少く、男性が本来の外での仕事の量を減らしたいという理由は、家事をしたいからではない。しかも、女性の中には、老若どちらでも男が家事に手を出すのをいやがる人もいるが、これは、今度、自分が置かれる新しい役割におそれを抱いているせいではないか、と。

「就業している女性は、仕事の中で、新しい役割を体験するが、専業主婦は、それを知らないのでおそれるのだ」とも言う。

今や、社会に望まれることは、家族にも求められていること。

家庭と職業が、男女に共通な問題になった時、婦人たちは、また他の生活条件のために闘い続けることになるだろう、と述べた。

英国で、三年間両親教育にたずさわってきたジュリアン・ピューさんは、両親としての自信もなく、人生者、よりよく過ごすためにどうという風にしたらいいかわからない人たちのために両親教育をしていく必要があるが、これには、ただ、たんに、プラスチックの赤ちゃんを使う教育がいいとは言えない。教育は、ニードに合ったものでなければならない、と述べ、両親教育には、両親に自信を持たせるための十分な情報が必要で、そのネットワークづくりが大切であるが、これには、全国ネットよりも、ローカルネットワークづくりが効果的。両親教育には、人間としてのニーズの一致も大切であるとした。

ジリアン・ピューさん（英）

やはり進学競争が日本
電子機器なども役立て
親の教育的役割

「家庭の社会・経済的背景と親の教育的役割」をテーマにしての討議では、お茶の水女子大学家政学部助教授の原ひろ子さんは「青少年の健全育成のために家庭・学校・地域が協力することが強く提唱されているが、これは、この三者がどのように協力するかという点が重要、特に、サラリーマン家庭での、父親の地域活動への参与が、子どもの人格の尊厳を維持するのに大きな役割を果たすのではないだろうか」と実例をあげて発表。

これを受けて、ノルウェーの教会・教育省研究相談員のハンス・タンゲルッドさんは「問題のある家庭は集中しているし、地域の問題が反映している」と。

広島大学教授の新堀通也さんは「日本の家庭教育の問題点は進学競争。いい学校へ入ることだけが関心事になっている。子どもが一家の主人公だ。夫が家庭教育に参加しないのは、妻が夫をどう教育しているかにかかっている」と。

筑波大学助教授の稲村博さんは、日本の校内暴力、家庭内暴力の要因として、家庭内暴力には、①生れつきの性格傾向、②家庭の養育態度③社会的要因が、校内暴力には①本人の要因②学校の要因③家庭の要因④社会の要因があげられると言う。

これに対して、デンマークの王立教育大学教授のハンス・ヴェジレスコヴさんは「デンマークでも落ちこぼれがいるが、これは両親に問題がある。両親が子どもに自分の要求を云えないのだ。やはり、家族同士のコミュニケーションが必要」と。

さらに、稲村さんは、日本の家庭内暴力について発表。これを分析すると、その要因には、本人自身が挫折していたり、フラストレーション・トレランス―困難に耐えることが出来ないのではない。日本の場合、一部を言うことで、子どもに強いコントロールをしているのだ」。

タマラ・K・ハーレヴンさん（米）

このセッションでは、社会的、経済的要因が教育や、家庭にどのような影響を及ぼしているかについて討議されたが、その外的要因としては、失業や雇用、住宅事情や、地方、都市の状況等に影響されていることが、各国共通の要因であることが明らかになった。

最近の核家族化への進行、離婚の増加による、片親家庭が、現代の社会の中で孤立化していることは、否めない。

ここで必要になってくるのは、地域社会や学校を基地とした、コミュニケーションが、家庭の孤立化を緩和するものだ。

デンマークのヴェジレスコヴさんが言うように「家族同士のコミュニケーションの必要性と、親と子の共通の関心事についての話し合いを持つべきという意見もだされ、本当のコミュニケーションを持つことの大切が訴えられた。

稲村さんの、日本の校内暴力、家庭内暴力に対するレポートは、各国からの注目を浴びた。親が子どもに過剰な対応をし、父性が欠如している現代型問題は、家庭の子ども登校拒否、暴力は、他国に余り例が見られないようだ。

両親教育の目標について、次の4項目が出された。まず近隣とのコミュニケーションを持つこと。電子機器の発達を親子のコミュニケーションに役立てること。さらに、性教育の必要性の是非、そして、父親性格、傷つきやすい性格であること、親の方にも、父性が欠如していたら、本気になって子どもをしかったことがないと言ったことがあげられる。

社会的要因としても、近隣と親しくなく、親同士の交流がないことも一因だ。また、暴力に関して①何でも許されるという子どもに対して甘い社会②両親や年上の人を大事にするという社会的規範が弱い③暴力をしかたがないというマス・メディアの報道がされていることも、これを助長していると。

「今の日本の社会の教育力は子どものフラストレーション・トレランスの弱い子どもを増やしている。子どものねばりづよさ、心の鍛練にかけているのが最大の理由ではないか。子育ても、今日、やむを得ないところもあるが、改善できることもあるはず」と結んだ。

ハーレヴンさんは、「青少年の非行には、日米間にさほど違いはないのではないか。また、しつけにしても日本は間接的、アメリカでは直接的と言われているが、学校の制服、一緒に起立したりするこの規律のきびしさが暴力につながるのではないか」との質問に対し、柏木さんは「日本は間接的と言うが、決してコントロールがゆるやかなのではない。日本の場合、一部を言うことで、子どもに強いコントロールをしているのだ」。

家庭教育の上で、母親が一心にその役割を演じている一方、父親が、これに携わらないことが、大きな問題であることがわかる。

父親たちの目を、家庭内にむけるためには、どうしたらいいのか。これを解決するためにも、両親教育の必要性が不可決だ。

フィンランドでは、若い父親たちに、妻が出産する時に、産院に行き、訓練や、出産に立ち合うといった、父親としての自覚を持たせるための教育を行っているという。

日本でも、父親教育として、医者が、来院するようにすすめているところもある。日本の父親は、子どもが幼児期には熱心だが、大きくなると無関心。両親教育の中でも父親教育のプログラムのあり方に、これから、もっとスポットがあてられるべきだ。

婦人手帳

★★★　ラッキョウでタコを釣る。千葉県の海岸での実況をテレビが放映していた。あのひょうきんな形のラッキョウを釣糸につけて海中に投ずるとこれまた愛敬者の飯（いい）ダコが抱きついたまま揚げられて来る。好物の貝と間違えるらしい。同じように力ニを糸にしばりつけて、タコを獲ることは知っていたが、ラッキョウとは奇想天外、発案者はどんな人だったろうか。この釣り、今が最盛期。

★★★　符丁を合せるようだが、数日前にラッキョウの花が咲いた。いささか前後の事情を説明すると、三十年も勤めて、もう家内の役は終ったと考えたのか、このところすっかり家外に変身した連れ合いが、それでも長年の習慣で、一度は漬け込んで食卓に供しようと思ったらしくラッキョウを買い込んだ。ザルに入れたまま〝家外活動〟に忙しく放置していた。うち数個が時期を忘れず花をつけたのである。かわいいものである。本来は「晩秋、五〇㌢ほどの花茎を立て、頂きに半球状に紫色の小花を集めてつける」のであるが、なにしろザルに入れたまま土も水も肥料もやっていないのだから、小花が集まって半球状のラッキョウの花になるはずが、それぞれに小花が一つやっと着けただけ。

★★★　花はややうつむいていて、目を近づけてみると鐘形の花弁から長い芯が突き出している。全体が透明な薄紫で宝石を思わせる清澄感がある。さっそく小さな鉢に寄せ植えしたが、家外のお陰で思わぬ美しいものを見たことになる。それにしても、あの逆境で季節を忘れないラッキョウの誠実。むいても皮ばかり、ラッキョウのような人というと中身のない軽薄の人の例えに使ってきたのは誤解であった。ハラの中に一物も二物も隠して、国民をあざむき愚弄する、永田町あたりのある一団の者たちに見習ってもらいたい位のものだ。時にもう晩秋である。菊花のけんらんが、ことしの花のしんがりとなる。春に備えて球根の植えつけを急がねばなるまい。

西独〝緑の党〟女性議員招く

「今、女が歴史を創るとき」集会実行委員会は、西ドイツの反核運動の担い手である〝緑の党〟の連邦議会議員・アンネマリー・ボルグマンさんを招いて、全国各地で市民交流集会を行う。

緑の党は、エコロジー、フェミニズムなど様々な市民運動グループの集合体（緑の人びと）で、連邦議員は二十七人。そのうち十人が女性で占められ、党の三人のスポークスマンのうち二人が女性。

反核運動や自然保護と共に女性解放を進めている緑の活動について直接聞こうというもの。

東京交流集会では、十一月二十一日（月）午後六時～九時。場所は総評会館（地下鉄・お茶の水駅下車）。参加費・八〇〇円。

アンネマリーさんの滞在費のカンパ、集会準備スタッフ、ビラまきなど手伝ってくれる人も募集している。

連絡先・豊島区北大塚三一二一十一七　酒井和子事務所内☎〇三（九四〇）六三五九。

天高く　味覚の季節は
おいしさのヒガシマル
ヒガシマルうすくちは
旬の味をそっくり生かします。
野菜の風味もお肉の味も
やさしく引きたって、
おいしく仕上げるおしょうゆです。
食欲の季節です。
おいしいものを
おいしくたべましょう。
ヒガシマル醤油　うすくち
うすくちは控えめにお使いください…
＊醸造元　兵庫県竜野市　ヒガシマル醤油株式会社

キャッツ（ブロードウェイ）ツアーに参加して

ブロードウェイのミュージカル「キャッツ」を見るツアーに参加されて、四日はかぶ、せいいっぱいの観劇をしてきたこのツアーのうちの、現日日本音楽学校長、ニッポン放送顧問で十数年にわたってMCを務められ、ラジオ、テレビ、舞台、映画、出版、ファッションなどの分野で活躍されている、ジャーナリスト、タレントの、ジャンボ・ジャンボ・松尾さんの、「観劇ツアーに参加して」をお送りします。

この「キャッツ」についてミュージカル、日本でもロングランを続けていますが、観るのは今が初めてです。専門の劇場を建てるなど、ロングランを続けている人気のあるものが、アメリカからも来る程評判、評判になっているのを、ずいぶんと、ながめてきました。

ちょうど、ニューヨークに、ちょうど、ニューヨークに、ちょうど、ニューヨークに、

風雪に堪え希望を

第三十一回大阪市母子寡婦福祉大会

事業費増額など決議

〝自覚と幸せ〟四つの誓い

決議と申し合わせを発表

第三十一回大阪市母子寡婦福祉大会は十月十九日、中之島の大阪市中央公会堂で開かれた。守田厚子全国母子寡婦福祉協議会長、近畿各府県会長も顔をそろえ、大会の雰囲気は盛り上った。

最近、若年母子家庭がふえているなど、複雑な社会環境の中で検討すべき問題が多くなっているだけに大会の意義は大きい。

開会のあいさつに続いて、共励会の名誉会長である大島靖大阪市長は、昭和二十八年に大阪市母と子の共励会が設立された当時をふりかえり、この会が全国でも有数の模範的な母子福祉団体に成長したことをたたえた後、母と子の関係講習会など数々の事業を成功させたことは大林会長始め、役員そして会員の皆様の努力の結果であります。今日の厳しい社会の経済情勢の中にありまして、働きは大いに期待されるところです。大阪市におきましても、母子寡婦福祉推進のために各種の資金の貸付け、母子寮や母子住宅への入居、母子家庭や或いは又、母と子の一般傾向の利用など、多数の施策を用意して参りました。いっそう強力な活動を展開されますよう期待申し上げます。」とあいさつ。

次に大林志栄会長から、母子寡婦問題のこれまでをふり返えり、行政はじめ協力諸団体に感謝の言葉、そして今後いっそう手を取りあって前進しなければならない、との決意が述べられた。

次いで表彰状の贈呈に移り、まず永年勤続役員（十五年以上）の下東ナラエ福島区会長と、葛川ミツ東成区会長に大島靖名誉会長と大林志栄会長から表彰状と記念品が贈呈された。次に優良母子家庭の母、二十五区の代表として、福島区の小浜貴美恵さんに、また優良寡婦二十四名の代表として、東淀川区の小山文子さんに、優良地区役員二十四名代表として北区の村上正枝さんにそれぞれ表彰状が手渡された。

永年勤続の表彰

次に木下伸生市会議長はじめ来賓の祝辞が続き、最後に全国母子寡婦福祉団体協議会長の守田厚子女史が、大阪が全国でも有数な業績をあげたことに感謝の言葉を述べ、祝辞をしめくくり、次の決意と申合せを発表した。

【決議】

第三十一回大阪市母子寡婦福祉大会に参加したわたくしたちは、母子寡婦福祉の前進と向上を期して次の事項を決議し、その実現を国及び市へ要望します。

一　母子家庭自立促進のため技能習得助成事業の原資を増額されたい。

一　母子年金、児童扶養手当を子女が高校を卒業するまで支給されたい。

一　寡婦にも介護人の派遣制度を是非確立していただきたい。

一　母子家庭および寡婦の雇用を促進するため独自の対策を考慮され、併せて雇用年令制限の引き上げを図られたい。

一　母子家庭および寡婦の地域活動を活発化するため、未設置の区に「母と子のつどいの家」を設置し、かつ運営費を補助されたい。

【申し合せ】

わたくしたちは、母子家庭ならびに寡婦の自覚と幸せを高めるため、次の事項を申し合せ、その実行を誓います。

一　わたくしたちは、相互のあわせのため連帯感を高め、共に励まし合いましょう。

一　わたくしたちは、現在の深刻な社会経済情勢のなかで、なお一層合理的な暮しの工夫をしましょう。

一　わたくしたちは、今日の青少年問題の重要性を考えて、母と子のふれあいを大切にし、明るい健康な家庭づくりに努めましょう。

一　わたくしたちは、母子家庭の母たちに組織への参加を勧めましょう。

この後全員起立の上「生き抜く白百合」を斉唱して第一部を終り、小憩の後、第二部、竜谷大学教授・中垣昌実氏の講演が行われた。

優良母子家庭の母を表彰

収益金は〝福祉〟へ

恒例の経木書き奉仕

天王寺区母と子の共励会
写真　白いシャツが岡橋会長

天王寺区母と子の共励会（岡橋操会長）では、九月二十日～二十三日、四天王寺で恒例の経木書き奉仕を行った。

同会では、毎年、彼岸に今は亡き家族の心の安泰を願おうと、四天王寺詣りを機に経木書き奉仕しているが、他店よりも安価とあって、人の切れ間もないほど。

ここでの収益金は、天王寺区母子・寡婦福祉のために使われる。

世の為になる活動を

新森小路婦人会　来賓の祝福を受け

あいさつする小島鶴子会長とこの一日を楽しむお年寄りたち

大阪市旭区新小路婦人会（小島鶴子会長）では、このほど、「第三十三回敬老会」を新森小路小学校講堂で開いた。

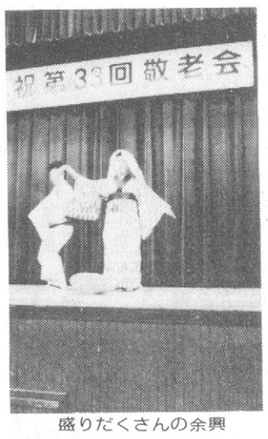
開会に当たり、同会の小島鶴子会長は、「この敬老会を始めたころ、私もまだ若く健康でしたが、気がつかないうちに、年をとっています。最近では、高齢化が進み、高齢者が増えていますが、昔、人生わずか五〇年と言っていた時代、四〇歳代五〇歳代が今の高齢者にあたっていたわけです。

今では、老人の健康に対する施策もいろいろと充実してきているので、これからも、まず第一に健康に留意していくことです。そして、趣味などに自分の時間をあてる以外に、社会に少しでも役に立つ活動――ボランティア活動と言うと堅苦しくなりますが――をしていくことも生きがいにつながります。生きがいを持つことが若さを保つ秘けつとも言えるでしょう。自分で幸福を築き、もう一つの人生を考えていただきたいと思います。私たちは、婦人会で奉仕活動をしていますが、今度、新森公園に建てられた新森会館で、老人問題を取り上げることができるようになりました。許可を得て、地域社会で一人暮しをしているお年寄に食事のサービスができたらとも考えています。」と挨拶。お年寄たちを激励した。

また、森友後援会代表は「日本は、世界で最も長寿の国であります。小島会長の言われるように、楽しく長寿を保つようにしていくことが一番。人間という人たちや、地域の中に十分生きていただけたらと思います。」と祝辞。

この後、来賓の府会議員、市会議員、PTA会長らからの祝辞が続いた。

第二部のアトラクションでは、歌唱や遊戯、詩舞、舞踊、長唄など盛りだくさんの余興が披露され、お年寄りたちの目を楽しませた。



盛りだくさんの余興

市の婦人施策基本計画を聞く

アトラクションでくつろぐ

「天王寺区婦人のつどい」（主催・大阪市天王寺区地域婦人団体協議会）が、十月三十一日、区民センター（天王寺区生玉寺町）で開かれた。

大阪市婦人教育課長からは、大阪市婦人施策に関する基本計画の策定についての説明、四条畷学園女子短期大学講師の吉田芳子さんが、「これからの女性の生き方」をテーマに講演、第二部のアトラクションでは、単位婦人会々員による芸能が披露されるなど、参加者の関心をそそる集りとなった。

それぞれの単位会が作品を展示する。写真は五条婦人会

アトラクションの部、全会参加での民踊〈おおさか音頭〉

天王寺区婦人のつどい

大阪市では、このほど、婦人問題の解決をはかり、男女平等社会の実現をめざす市政のあり方をまとめた「婦人施策に関する基本計画」をまとめた。

今回出された「婦人施策に関する基本計画」は、「国連婦人の十年」のテーマ、平等・発展・平和の趣旨に沿って、男女平等への市政をすすめるための基盤となるものだ。

計画の中には、①男女平等社会の実現②女性の自立と社会参加の促進③女性の生涯にわたる生活の安定と健康保持の三つの基本目標が定められている。

婦人問題の啓発、ひいては、男女平等を進めていくためには、制度の見なおしが第一だが、長い歴史の中で培われた、意識や慣習を根本から変えていくことも大切だ。

坂本さんは「根気よく、きめ細やかな情報提供、問題提起を積み上げていくしかない。また、政策・方針決定の場、市民活動に参加する女性たちは、ほんの一握りの人たちしかいないのはゆゆしい問題」と。

昭和五十二年六月、国の婦人問題企画推進本部では「婦人の政策決定参加を促進する特別活動推進要綱」を決定、①審議会・委員会への女性の積極的登用②女性公務員の採用、登用および職域の拡大、能力開発③地域の諸計画への女性の参加促進について各関係機関への協力を呼びかけるなどの内容を盛り込んでいる。

「こうしたことも踏まえ、真の男女平等の社会の実現のために、あらゆる方面での努力を惜しんではならない」と結んだ。

続いて、松尾天王寺区長は「十一月二十日、大阪市長選挙があるが、天王寺区は、市内でも投票率が悪いところ。婦人の社会参加ということが言われるが、選挙の時に投票をすることも、社会参加の表われではないだろうかと思う」と挨拶した。

天王寺区地域婦人団体協議会の竹田靖子会長は、「このつどいも今年で十四回目を迎える。国連婦人の十年も八年目。大阪市でも十年間にわたって、婦人の施策に関する基本計画が策定され、これからも、婦人の地位向上と、社会参加、高齢化社会の問題に取り組んでいかなければならない。長い間の慣習というのは、なかなか改められるものではないが、私たち一人一人が多くの人たちと連帯していくことが、婦人差別撤廃条約の早期批准につながるものではないか」と挨拶した。

この後、四条畷学園女子短期大学講師の吉田芳子さんの講演、アトラクションに移った。

坂本婦人教育課長

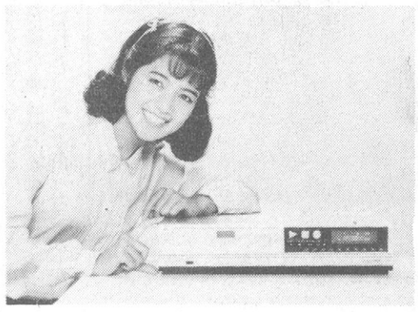
吉田芳子講師

これについて、大阪市婦人教育課長の坂本宗子さんは、「本当の男女平等への道を開こうとする動きが、世界的に拡がっている。男女の役割分担意識は、一見合理的に見えるが、これを固定してしまうことは、男性の生涯にもひずみをもたらしている。婦人問題の解決は、女性だけの課題ではなく、男性が人間らしい生活をするためにも必要なこと」と前置き。

新製品

マイビデオV28

（シャープ）



ビデオの本格的な普及に伴い、ユーザーの層が拡大、二十代を中心としたヤングや女性が増えてきている。

シャープでは、ニーズに応えた、基本性能、操作のシンプル性に加え、軽薄短小、ファッション感覚の多機能ビデオ〈マイビデオV28〉（VC-二八〇〇）を発売する。

★特長★

▽クリーンSSヘッド、ファインスロー回路によるクリーン静止、ファインスロー、ファインコマ送り。

▽スリムなワンハンド操作のワイヤレスリモコン付。

▽パールホワイトを加えた四色ファッションカラー。

▽大型ジグナルボタン、クイックタイマー、画質調整ツマミ、ブースター電源。

【標準価格】二六万九八〇〇円。

ニーズに応え簡単で多機能